

English follows Japanese

創世記 24:1-9 神の望まれる方法で神の御心に従う

アブラハムの人生に起こった出来事で、神が私たちに知らせようと聖書に記された出来事は、あとほんのわずかしが残っていません。そのうちの一つが息子の嫁を迎えたいということでした。過去には様々な配偶者選びの方法がたくさんあります。人類の歴史の長くに渡り、親は子の配偶者の選択に深く関わってきました。今日ではそのようなやり方はあまりしませんが、アブラハムは息子の妻選びを始めます。このことについては24章全体で取り挙げられていますが、今回はこれから4週にわたって4つのメッセージに分けてお話ししようと思います。説教では4回に分けますが、是非ご自身で24章全体を読んでみて下さい。この話の全体像を理解することができるかと思います。今日はこの話の始まりである最初の9節から、アブラハムがどうしてそのような方法で義理の娘を見つけようとしたのかを説明したいと思います。今日の箇所に入る前に祈りましょう。

まずは創世記 24:1-9 をお読みします。「1.アブラハムは年を重ねて、老人になっていた。主は、あらゆる面でアブラハムを祝福しておられた。2.アブラハムは、自分の全財産を管理している、家の最年長のしもべに、こう言った。「あなたの手を私のももの下に入れてくれ。3.私はあなたに、天の神、地の神である主にかけて誓わせる。私はカナン人の間に住んではいるが、あなたは、その娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない。4.あなたは、私の国、私の親族のところに行って、私の息子イサクに妻を迎えなさい。」5.しもべは彼に言った。「もしかしたら、その娘さんが、私についてこの地に来ようとしなないかもしれません。その場合、ご子息をあなたの出身地へ連れて戻らなければなりませんか。」6.アブラハムは彼に言った。「気をつけて、息子をそこへ連れて戻ることのないようにしなさい。7.天の神、主は、私の父の家、私の親族の地から私を連れ出し、私に約束して、『あなたの子孫にこの地を与える』と誓われた。その方が、あなたの前に御使いを遣わされるのだ。あなたは、そこから私の息子に妻を迎えなさい。8.もし、その娘があなたについて来ようとしなないなら、あなたはこの、私との誓いから解かれる。ただ、私の息子をそこに連れて戻ることだけはしてはならない。」9.それでもしもべは、主人であるアブラハムのももの下に自分の手を入れ、このことについて彼に誓った。」

この箇所で重要なのがアブラハムが神に従順であったということです。神に従い見知らぬ土地へ行き、サラによって子どもを与えられると言う不可能に思える約束を与えられても神を信じ、息子をいけにえとして捧げるよう言われたときも神に従いました。息子イサクの妻を見つけようとするときでさえ、アブラハムは神の御心に従い続けるつもりでした。神の御心に従うよりも更に重要なのは、それを神の望まれる方法で行うということです。神がアブラハムに移住するよう明確に命じられた土地に留まりつつ、イサクが明確に示された神の御心に従えるような方法で、アブラハムは事を成そうとします。神は家族のいる国を出るよう命じられました。イサクが同じ一族の妻を必要としていたからといって、この事実は変わりませんでした。

アブラハムの人生において最大の過ちの一つは、神の御心を自分の方法で、成そうとしたことであつたことを思い出してください。あるいは妻のサラの方法でと言った方が良いかも知れませんが、神は息子を約束してくださいましたが、サラとアブラハムは自分たちの年齢を考えるとそれがどんどん起こり得なくなっていることを知っていました。使用人のハガルを夫の側室にし、彼女によって子どもをもうけることは、この当時全く合理的な解決策でした。ですがその結果生まれたイシュマエルは、既に見たようにアブラハムの家族にさらに多くの問題を引き起こしました。もちろん神はイシュマエルとその母ハガルを祝福し、彼を偉大な国にすることを約束されましたが、最終的にイサクが生まれたとき、アブラハムは神の御心に神の望まれる方法で従う事の重要性を学んだのでした。それこそが最大の喜びと満足を得られる道でした。ですからイサクの妻を見つけるにあたって、アブラハムは明確に示された神の御心の外に出ることはありませんでした。しもべに誓わせたことの中で唯一交渉の余地のないものが8節の「もし、その娘があなた

について来ようとしなければ、あなたはこの、私との誓いから解かれる。ただ、私の息子をそこに連れて戻ることだけはしてはならない。」ということだったことに注目してください。

彼がなぜこのような方法で妻を見つけるようしもべに頼んだのか、また神の御心について更に見ていく前に、アブラハムがしもべに誓わせた方法についてお話したいと思います。2-3節に「あなたの手を私のももの下に入れてくれ。3.私はあなたに、天の神、地の神である主にかけて誓わせる。」とあります。これはしもべに誓いを立てさせる方法としては奇妙な行動に思えます。この意味はしもべが手を入れるよう言われた体の部位にあるようです。その体の中の位置から、一族が代々続き、子どもの誕生を通して家族が繁栄する力を示すことからももが使われました。これ以上の詳細な説明は必要ないかと思えます。

さて、ももの下に手を入れて誓いを立てさせたわけですが、アブラハムがしもべに誓わせた文言に注目してください。まず、誓いは神によるものでした。3節に「私はあなたに、天の神、地の神である主にかけて誓わせる。」とあります。マタイによる福音書5章にあるイエスの山上の垂訓をご存知であれば、そこでイエスが明確におっしゃっているのを知っていらっしやると思えます。マタイ5:34-37にこうあります。「34.しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。天にかけて誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。35.地にかけて誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムにかけて誓ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。36.自分の頭にかけて誓ってもいけません。あなたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないのですから。」聖書にこのような誓いや約束がまだ見られるのはなぜかと疑問を持たれるかも知れませんが、明確にしておきます。イエスは約束をしたり誓ったりしてはいけないと言っているのではありません。イエスが言いたかったのは、約束を嘘で捻じ曲げる宗教指導者たちに、誓いをそのように扱ったりせず、その言葉を尊重するようにということです。ですから、このしもべもアブラハムに求められたことを誓う前に、考えるあらゆる状況について注意深く質問しているのです。

ここでアブラハムが神をどのように描写しているかに注目してください。天の神、地の神と呼んでいます。深読みしすぎかもしれませんが、このことはこの新しい土地に来て、イサクという賜物を頂いた、神のご計画に従いその御心を成すことに費やしたアブラハム自身の人生に特別な意味を見出しているようにも見えます。彼の召しと目的が、神の創造のご計画と同じくらい大きな計画において重要な役割を果たすことをアブラハムは認識していました。もちろん、自分が神の救いのご計画、つまり人類すべての贖いのご計画の中の重要人物であると認識していたわけではありませんが、神が何か大きなことを成されようとしていることは認識していました。このような認識をもって神にかけて誓うことで、周囲の人々が崇拜する偽りの神々ではなく、彼らをこの新しい国に導かれた神からの指示を与えているのだということを明確に示しています。

ではアブラハムがしもべになぜ先ほど述べたような要求をしたのか、そして神の望まれる方法で神の御心を行う事の重要性に戻ります。神はアブラハムにこの国に来るようにと命じられました。ですから約束された相続人であるイサクを、今更神のご計画と御心の外に連れ出すことを彼はしませんでした。けれども、神についての知識に基づいて、義理の娘を探すために自分たちが住んでいる地域の外にしもべを行かせるという決断には別の理由があったかも知れません。3節の最後に彼は「私はカナン人の間に住んではいるが、あなたは、その娘たちの中から、私の息子の妻を迎えてはならない」と言っています。自分たちが住んでいる地域の娘たちの一人が義理の娘とならないようにすることがなぜそれほどまでに重要だったのでしょうか。やや人種差別的、あるいは、この地域の娘では息子の嫁には不十分だといった傲慢さを感じないでしょうか。ですが、そういった理由ではなく、この地域の人が多くが神を崇拜していないという事実が理由のようです。この土地の王アビメレクに見られるように、彼らは神を崇拜することに反対をすることはなかったようですが、大多数がアブラハムに現れ、聖書においては私たちにご自身を現してくださる神を実際にあがめる者ではありませんでした。アブラハムは新約聖書のコリント第二6:

14 で示されている原則に基づいて、こうした条件を出したと思われます。その箇所には「不信者と、つり合わないくびきをともにしてはいけません。正義と不法に何の関わりがあるでしょう。光と闇に何の交わりがあるでしょう。」とあります。

聖書全体にコリント第二 6：14 に集約される一貫したテーマが見られます。それは、神の民は聖書の神に従わない世と密接な関係にあるべきではないということです。結婚ほど密接で親密な関係はありません。結婚ほど「くびきを共にする」と言える関係はありません。くびきとは、畑を耕すために 2 頭の牛をつなぐための重い木でできた道具でした。くびきで繋げられなければ一頭はこちらへ、もう一頭はあちらへとといったことになり、何も成し遂げられなくなってしまいます。クリスチャンとして私たちは自然とこの世とは異なる方向に進んでいるはずですが、既に見てきたアブラハムの人生における重要なテーマの一つは、この世は私たちにとって本当の祖国ではないので、世にあっては異邦人として生きるべきだということでした。ですから、未信者と結婚することは、私たちが神を敬う生き方を求める一方で、配偶者は神との関係の欠如を反映する異なった価値観によって生きるのですから、自然と難しい関係に身を置くことになります。決して未信者の方と結婚している人たちを非難しているのではありません。多くの方が神の恵みにより結婚した後に救われ、自分の配偶者がキリストに従うのを見ることを望んでおられることを知っています。あるいは皆さんの中には結婚したときにご自分の信仰にそれほど真剣ではなく、神の御心をきちんと求めなかったという方もおられるかも知れません。神は赦し、救われた配偶者を通して救われていない配偶者にも働かれる方です。イサクを通してアブラハムの子孫が偉大な国となるのが神の御心であるのは明らかでした。それはイサクが妻をめとることを意味しており、アブラハムはそれを神が望まれる方法で成すことを決めていました。つまり彼の家族が行くようにと命じられた土地から離れず、御言葉を通して、またアブラハムに明らかにされた神へのイサクの信仰を共有しない、その土地の娘たちとは結婚しないことを意味しました。

ここでまだ結婚相手を探しており、自分の周りにはクリスチャンの友達がほとんどいないので、未信者の方との結婚を考えようとしていらっしゃる方に一言お伝えします。ガラテヤ 6：9 は「失望せずに善を行いましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることになります。」と言っています。あなたと同じように神に献身されている方にあなたを導くことができる神の力を見限らないでください。日本でクリスチャン同士の出会いを手助けするサービスもあります。どうかイサクの妻の時と同じように、神はあなたが御心に従うのを助けることができるお方であるという事実を決してあきらめず、信仰を持ち続けてください。

アブラハムは神がイサクに妻を与えることがお出来になることを決して疑いませんでした。非常に高齢であっても子どもを授け、息子の代わりに角を捕えられた犠牲の雄羊を与えることと比べて、神にとって妻を与えることなどどれだけのことでしょう。神の実績は完ぺきです。アブラハムはこのことを 7 節で認めています。「天の神、主は、私の父の家、私の親族の地から私を連れ出し、私に約束して、『あなたの子孫にこの地を与える』と誓われた。」私をここに連れ出し、この土地を約束された同じ神が、今イサクのために妻を探す中にも道を備えて下さるということです。けれど、アブラハムは神の導きに過度に期待したわけでも、自分の信仰をしもべに強要したのでもありませんでした。イサクを連れ出さないという一つの条件だけは破らないとしたうえで、しもべを誓いから解くことに合意します。アブラハムの信仰がここにも見て取れます。これこそ神が私たちに望んでおられること全てに対して、私たちが向き合うべき方法、信仰による生き方です。そして、神の御心に信頼し、神を信じるということは、たとえそれが難しく思えたとしても、神の望まれる方法でそれを成さなくてはならないことを意味します。身近な場所で女性を探す方が簡単ですが、神に望まれる道は、神の民が他の神々を崇拝するようになってしまわないよう、アブラハムの信仰とその家族の遺産を共有する女性を見つける事でした。もちろん、イスラエル人はこの後こうした状況を何度も通ることになるわけですが、この時点でアブラハムは神の望まれる方法で神の御心を選びます。

イエスが進んで十字架にかけられた時も同じ選択をされました。十字架にかけられる前の晩、ゲッセマネの園で祈られた時、ルカ 22：42 にある言葉を祈られました。「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」

イエスは父なる神の御心を成すために来られたので、私たちのために進んで十字架に向かわれました。もちろん子なる神として、主は私たちには決してできないほどに父なる神の御心に完全に一致しておられましたが、その従順さが私たちに救いをもたらしたのです。今日、私たちは主の晩餐にあずかるたびに、主の従順さ、神の御心に従う事のできない自分たち、それゆえに救い主が必要であることを覚えます。このパンを食べ、カップを飲み、主が私たちのために進んで苦しみを負い死んでくださったことを覚えます。イエス・キリストを主とし、救い主として受け入れ、バプテスマを受けられている方は是非主の晩餐に共にあずかってください。お祈りの後、御言葉を読み、執事が祈り、共にパンを頂いたあと、カップについても同じように行います。今朝お入りになる際にパンとジュースをお受け取りになったと思います。もしお持ちでない方は手を挙げてお知らせいただければお手元にお持ちします。祈りましょう。

Sermon Genesis 24:1-9 Doing God's Will God's way

There are only a few events left in the life of Abraham, at least in what God intended us to know of his life by what is recorded in Scripture. As one of the final acts of his life, he wanted to make sure that his son has a wife. Of course, there have been many different ways that spouses have been chosen over the centuries of time. For much of human history, parents have been heavily involved in the choosing of spouses, and while we would not do it that way today, Abraham set out to choose a wife for his son. While this actual event covers all of chapter 24, I am going to cover it in 4 separate sermons over the next 4 weeks. I would encourage you to read through it completely on your own although I am splitting it up. It is one complete account that you should understand belongs together. Today we will cover the first 9 verses which set the stage for everything that happens, and explains to us why Abraham sets up finding a daughter in law in this way. *Let's pray* before we get into our text for today.

Let's begin by reading **Genesis 24:1-9. 24** Now Abraham was old, well advanced in years. And the Lord had blessed Abraham in all things. ² And Abraham said to his servant, the oldest of his household, who had charge of all that he had, "Put your hand under my thigh,³ that I may make you swear by the Lord, the God of heaven and God of the earth, that you will not take a wife for my son from the daughters of the Canaanites, among whom I dwell, ⁴ but will go to my country and to my kindred, and take a wife for my son Isaac." ⁵ The servant said to him, "Perhaps the woman may not be willing to follow me to this land. Must I then take your son back to the land from which you came?" ⁶ Abraham said to him, "See to it that you do not take my son back there. ⁷ The Lord, the God of heaven, who took me from my father's house and from the land of my kindred, and who spoke to me and swore to me, 'To your offspring I will give this land,' he will send his angel before you, and you shall take a wife for my son from there. ⁸ But if the woman is not willing to follow you, then you will be free from this oath of mine; only you must not take my son back there."⁹ So the servant put his hand under the thigh of Abraham his master and swore to him concerning this matter.

The key to this entire passage is Abraham's obedience to God. He had followed God to a new land, believed God when given the impossible promise that he would have a child by Sarah, and obeyed God when told to sacrifice his son. He was going to continue to follow God's will even in finding a wife for his son Isaac. Even more importantly than following God's will is that he intends to do it God's way. He will do it in such a way that will have Isaac following the clearly revealed will of God by staying in the place that God had clearly told Abraham to relocate to. God had said to leave the country of his family. This did not change because Isaac now needed a wife that was from that same family.

Now, we have to remember that one of Abraham's biggest failures of his life was trying to do God's will in his own way, or should I say according to his wife, Sarah's way. God had promised a son, but Sarah and Abraham both knew that at their ages, this was seeming less and less likely. It was a perfectly reasonable solution for that time to let her servant Hagar become her husband's concubine and have children by her. They did this and the result was Ishmael, which as we have seen caused more problems in Abraham's family. Now, of course God blessed Ishmael and his mother Hagar and promised to make him into a great nation as well; but when Isaac was finally born, **Abraham finally learned the importance of doing God's will, God's way.** That was how to experience the greatest joy and satisfaction. So, now in this act of finding Isaac a wife, Abraham would

not go outside of the clear will of God. Notice what he tells his servant is the one non-negotiable item of his promise he was requesting of his servant in verse 8, **But if the woman is not willing to follow you, then you will be free from this oath of mine; only you must not take my son back there.**"

Before we get into why he asked his servant to find a wife in this way, and come back to this focus on God's will, I want to talk about **how he made this agreement with his servant**. Verses 2-3 says, **Put your hand under my thigh,³ that I may make you swear by the Lord, the God of heaven and God of the earth**. This seems like a strange action to take to ask his servant to swear a promise to him. It is likely that the meaning of the action he asks is servant to take is in the location. The thigh was used as the place of swearing and oath because it indicated by its location on the body the power of continuing the family line through births and the heritage of the family that the patriarch and senior male representative of the family continued. I don't think I need to get any more specific than that!

So the oath sworn by a hand underneath the thigh is how he made the agreement, but notice the words of the agreement that Abraham asks him to swear to. First, the oath is by God. Verse 3 says, **I may make you swear by the Lord, the God of heaven and God of the earth**. Now, if you're familiar with Jesus' teaching in Matthew 5 on the sermon on the Mount, you know that Jesus says clearly in **Matthew 5:34-37 But I say to you, Do not take an oath at all, either by heaven, for it is the throne of God, 35 or by the earth, for it is his footstool, or by Jerusalem, for it is the city of the great King. 36 And do not take an oath by your head, for you cannot make one hair white or black. 37 Let what you say be simply 'Yes' or 'No'; anything more than this comes from evil**. Just let me clarify in case you question why we still see these types of oaths or promises in the Bible. Jesus was not saying to not make promises or take oaths. What he was saying was to the religious leaders who twisted promises into lies to not treat oaths in that way, but to honor them and not go back on their word. It is why the servant is careful to question all possible outcomes before swearing this promise that Abraham is asking him to make.

Notice how Abraham is describing God here. He is referencing his identity as the Creator – Lord of Heaven and Earth. This may be stretching the significance, but it seems to show that Abraham recognizes a special significance to his life that has been spent following God's plan and doing God's will in coming to this new land and being given the gift of Isaac. He recognizes that his calling and purpose plays a significant role in a plan that is as big as God's plan for creation itself. He of course does not realize that he is a key figure in God's salvation plan, his redemption story for all of humanity, but he recognizes that God is doing something big. With this knowledge, by making an oath by God, he is making it clear that he is giving these instructions from God whom he has followed to this new country and not from any of the false gods that were worshipped by the people around them.

And this brings us back to the reason for his request to his servant and the importance of doing God's will, God's way. God had told him to come to this country, and he was not going to now send the promised heir, Isaac away from the country to possibly move out of God's will and plan. But, there is likely another concern that he has based on his knowledge of God that drives his decision to have his servant go look for a daughter in

law outside of the area they live. He makes it clear at the end of verse 3 when he says **that you will not take a wife for my son from the daughters of the Canaanites, among whom I dwell**... Why is it so important that his daughter in law not be one of the local girls from the area they actually live in? This seems a little racist or at least maybe a little arrogant, that they are not good enough for his son. But more likely is the fact that the majority of the inhabitants of the land do not worship God. They do not seem to be against worshipping his God as we have seen with Abimelech, a local king, but the majority are not active worshippers of the God who revealed himself to Abraham and to us in the Bible. Abraham is likely making this request based on a principle made clear in the New Testament in **2 Corinthians 6:14. It says, Do not be unequally yoked with unbelievers. For what partnership has righteousness with lawlessness? Or what fellowship has light with darkness?**

There is a consistent theme throughout Scripture that points to 2 Corinthians 6:14. It is this...the people of God should not be in close intimate relationships with the world that does not follow the God of the Bible. There is no closer, more intimate relationship than marriage. You are never more “yoked” with someone than in marriage. A yoke was a heavy piece of wood joining two oxen together usually to plow a field. Otherwise one might try to go one way and one the other, and you would never get anything accomplished. As a Christian you are supposed to naturally be going a different direction from the world. One of the key themes of Abraham’s life that we have already covered is that this world is not our real home, so we are to live as aliens and strangers on this earth. To then marry a non-believer puts us in a naturally difficult relationship as we seek to honor God and our spouse lives by different values that reflect their lack of relationship with God. That is definitely not to condemn those in a marriage to an unbeliever. I know that God has been gracious to many of you and after marriage you were saved by God’s grace and your desire is to see your spouse follow Christ. Or perhaps you were not as serious about your faith when you married, and did not seek God’s will as much as you should. God forgives and God uses the saved spouse to reach the unsaved spouse. It was clearly God’s will that Isaac continue on Abraham’s descendants to become the great nation, which would mean that he has a wife, but Abraham was determined that doing that will would be done God’s way. This meant not leaving the area his family was commanded to move to, and not marrying a girl in the land around them who did not share Isaac’s faith in the God revealed in the Bible and to Abraham.

And can I just say something to those who are still seeking a spouse, and you are ready to consider an unbeliever because there are few Christians in your circles of friends. **Galatians 6:9 says, 9 And let us not grow weary of doing good, for in due season we will reap, if we do not give up.** Don’t give up on God’s ability to lead you to someone who is as committed to God as you are. There are modern resources that can help like Christian dating services even here in Japan that can really help. But never give up on the fact, continue to have faith, that God can work to help you obey his will, just as we will see him do in the case of Isaac’s wife.

Abraham’s faith never waivered that God could provide a wife for Isaac. What was a wife to God compared to an impossible birth or a sacrificial ram caught by his horns to take the place of his son. God’s track record is perfect! Abraham recognizes this in verse 7, **7 The Lord, the God of heaven, who took me from my father's house and from**

the land of my kindred, and who spoke to me and swore to me, 'To your offspring I will give this land,' The same God who did all this for me to bring me here and promise me this land will create a path for the same type of action in finding Isaac a wife now. But Abraham was not presumptuous of the Lord's leading, nor was he forcing his faith on his servant either. He agrees to let him out of the agreement with one stipulation that should never be broken – that Isaac not go there. Abraham's faith is once again on full display here. This is the same way that we approach everything God wants us to do. By Faith. And having faith in God to trust his will means that we must do it God's way, even if that way seems harder. The easier path would be find a woman locally, but the godly path was finding a woman who shared his faith and his family heritage so that God's people did not take up worshipping other gods. Of course, the Israelites would do this in great numbers at many times in their future, but for now, Abraham makes the choice to do God's will, God's way.

Jesus made that same choice when he willingly went to the cross. The night before his crucifixion as he was praying in the Garden of Gethsemane Jesus said these words in [Luke 22:42](#). "Father, if you are willing, remove this cup from me. Nevertheless, not my will, but yours, be done." Jesus willingly went to the cross for you and me because he came to do the will of God the Father. Of course as God the Son, he perfectly conformed to God the Father's will in a way we never can, but his obedience brought us salvation. Today we remember his obedience and our inability to conform to God's will and our need for a Savior every time we take this communion meal. We will eat this bread and drink this cup and remember the death he was willing to suffer for us. If you have accepted Jesus Christ as your Lord and Savior and been obedient in baptism, then we invite you to participate with us. After I pray, I will read scripture and a Deacon will lead in prayer for the bread and we will eat together, then we will do the same with the cup. Everyone should have already picked one up today when you came in, otherwise, please raise your hand, and one of our Deacons in the back can get you one now. Let's pray.